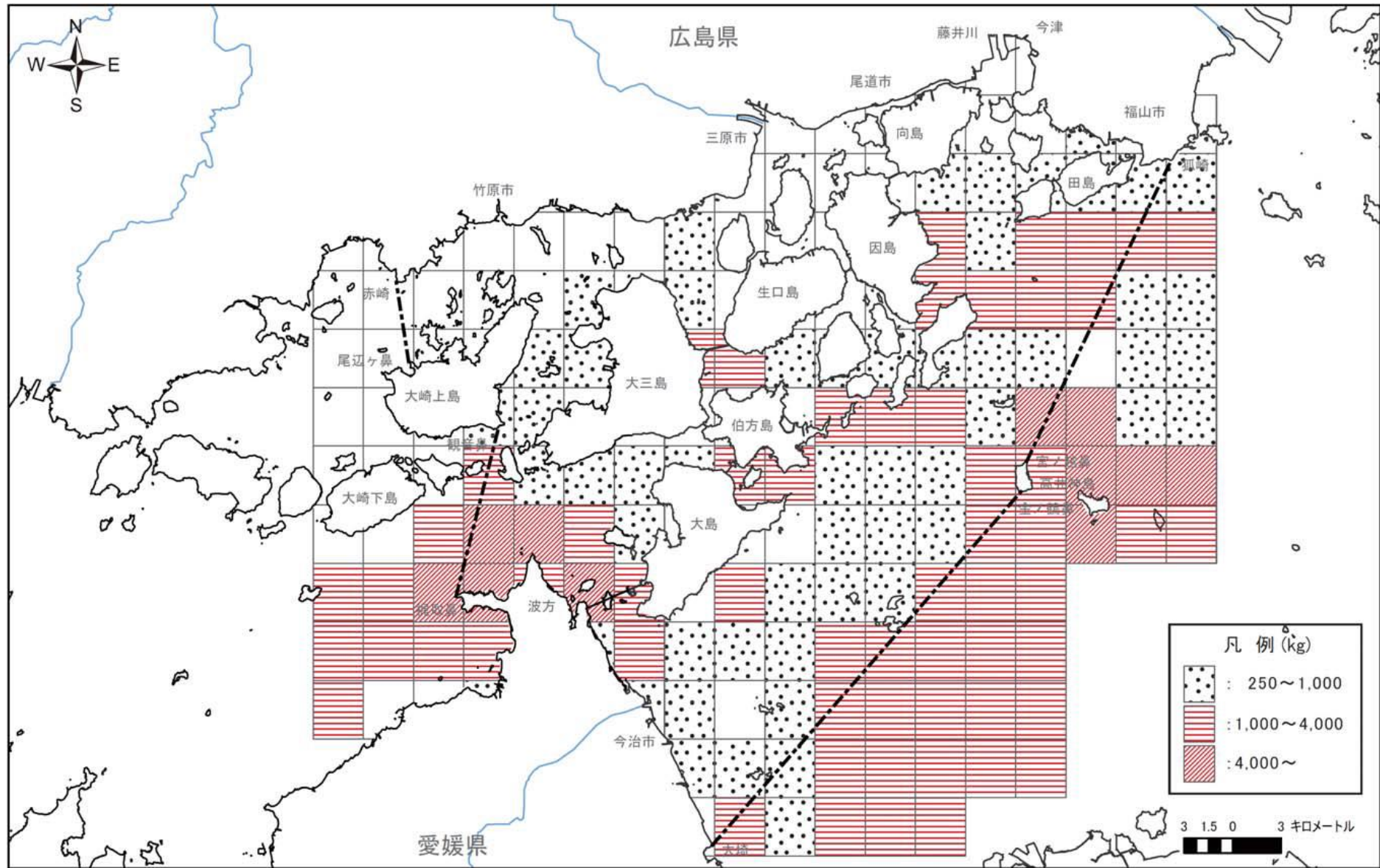


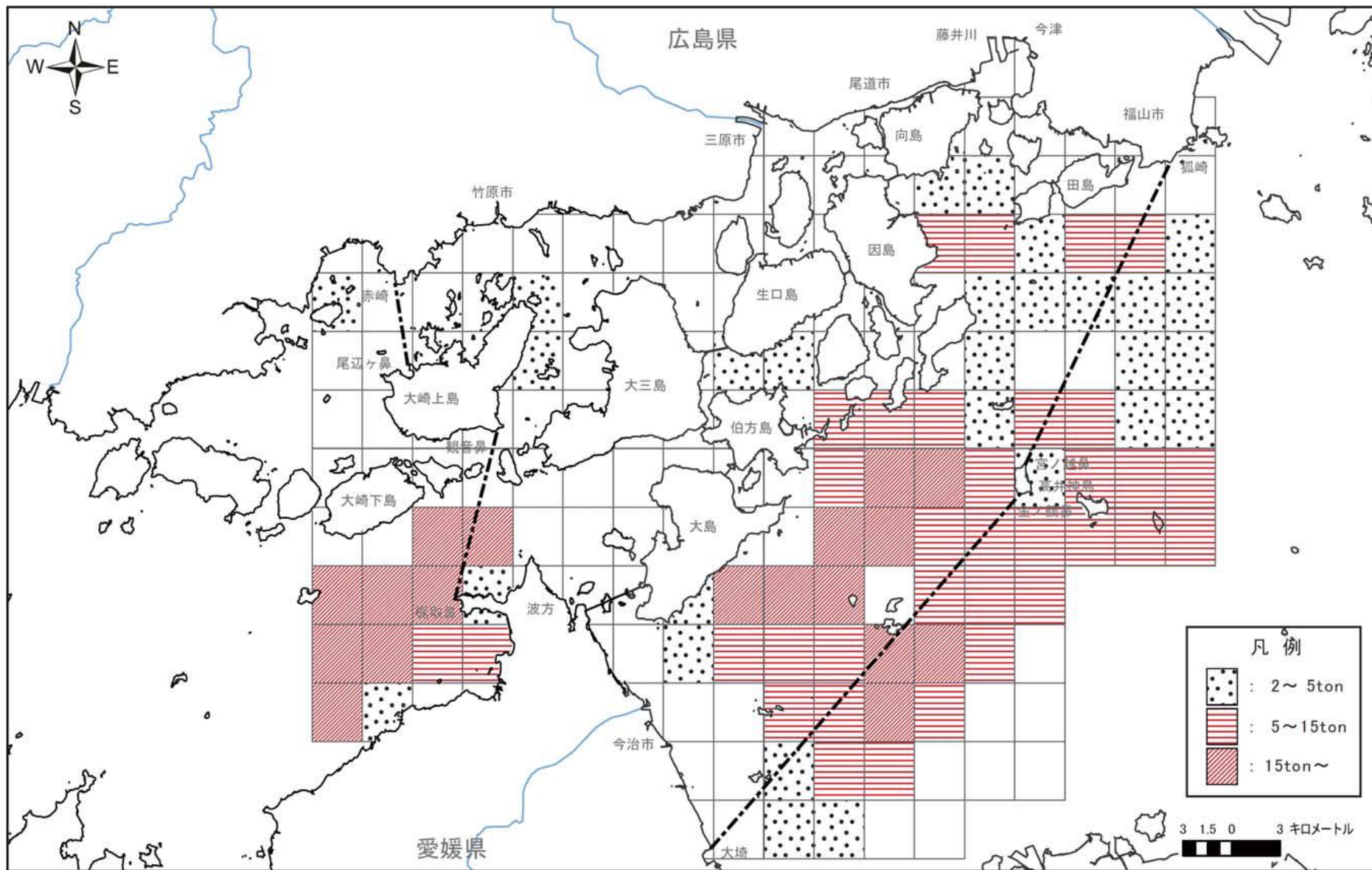
表 1.6 主要魚介類 9 種の漁場分布からみた干潟・藻場等の利用状況

魚種	産卵場として利用されていると考えられる干潟・藻場等
スズキ	北東部の浅場
カレイ類（マコガレイ・イシガレイ）	南部の浅場
ヒラメ	北東部・南部の浅場
マダイ	北東部・南部の浅場、中央部の藻場（生口島周辺、伯方島周辺、生名島・岩城島・平内島周辺）
ガザミ	北東部・南部の浅場、北東部の干潟（松永湾～南側沿岸）
クルマエビ	北東部・南部の浅場、北東部の干潟（松永湾～南側沿岸）
アサリ	北東部の干潟（松永湾～南側沿岸）
サザエ	中央部の藻場（生口島周辺、伯方島周辺、生名島・岩城島・平内島周辺）、北西



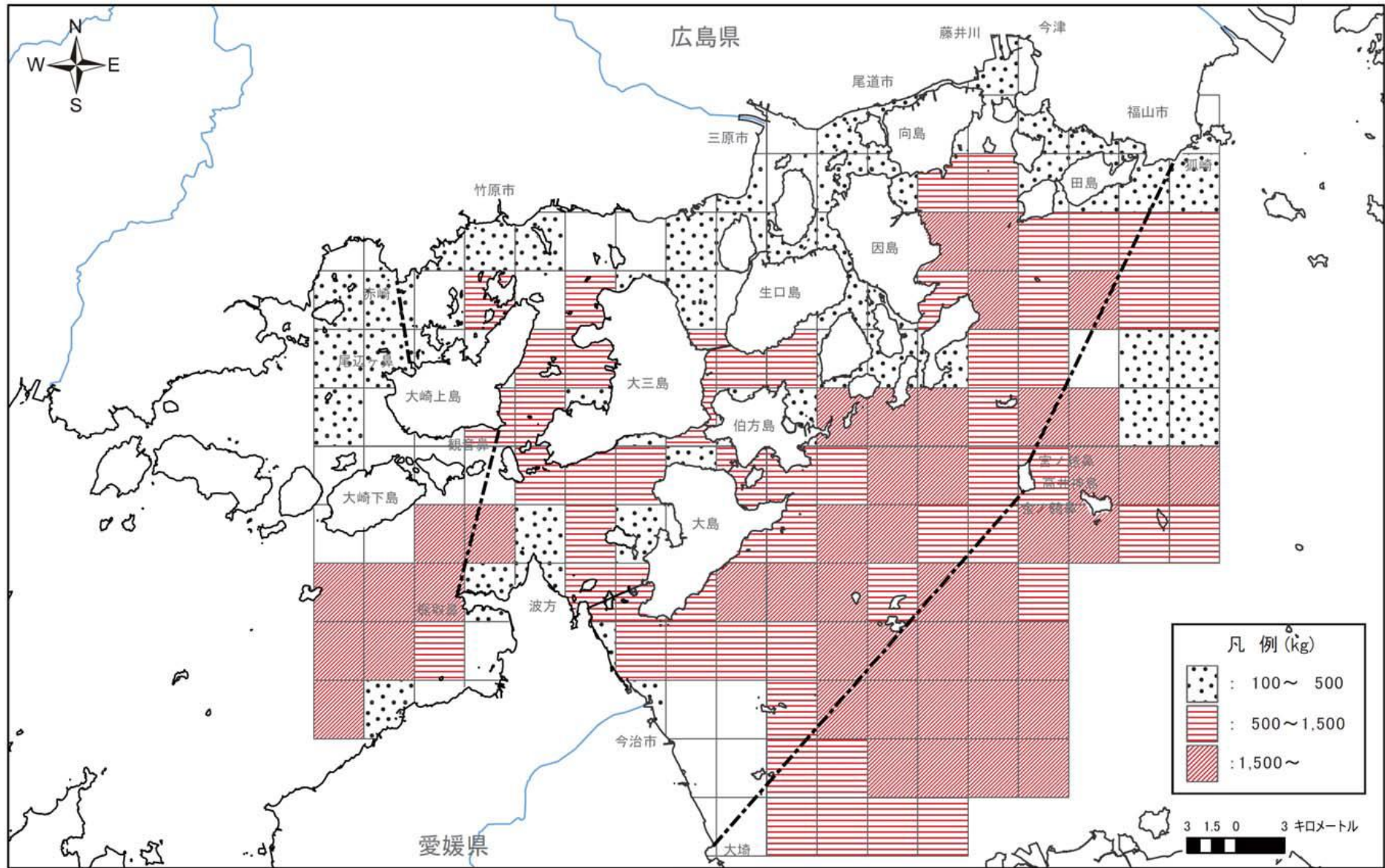
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 1.10(1) 主要魚種の漁場分布図（スズキ）



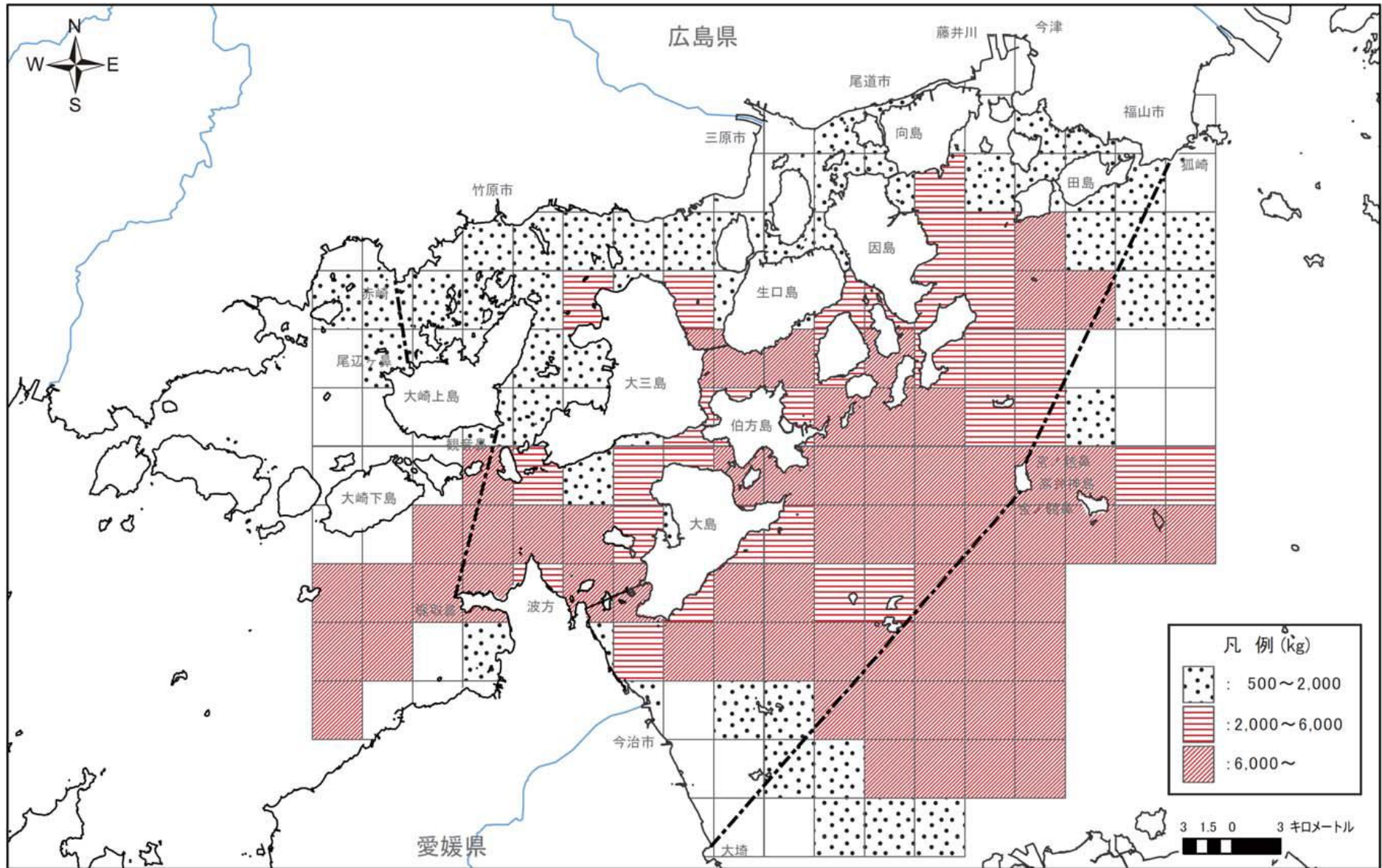
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 1.10(2) 主要魚種の漁場分布図（カレイ類）



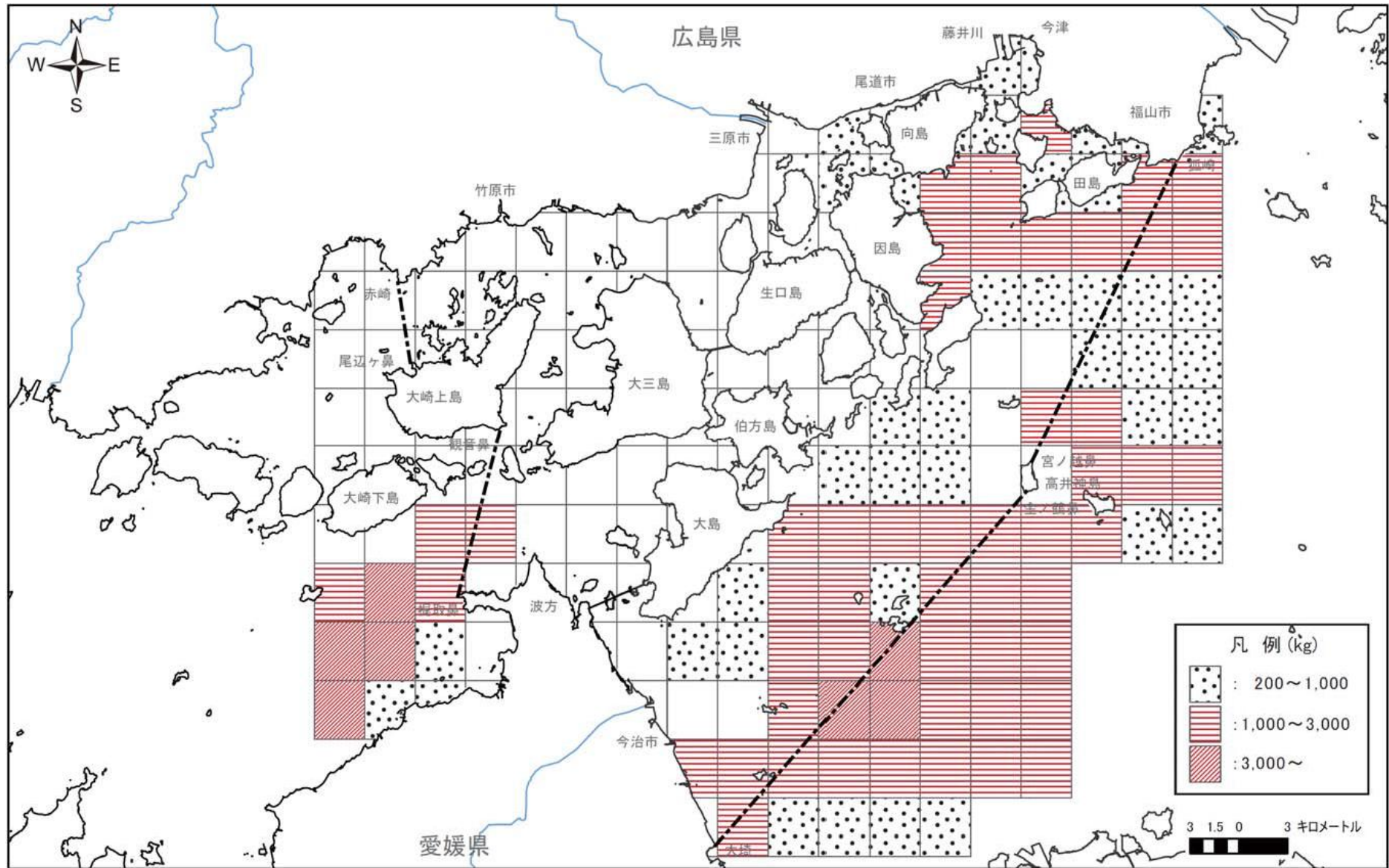
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 1.10(3) 主要魚種の漁場分布図（ヒラメ）



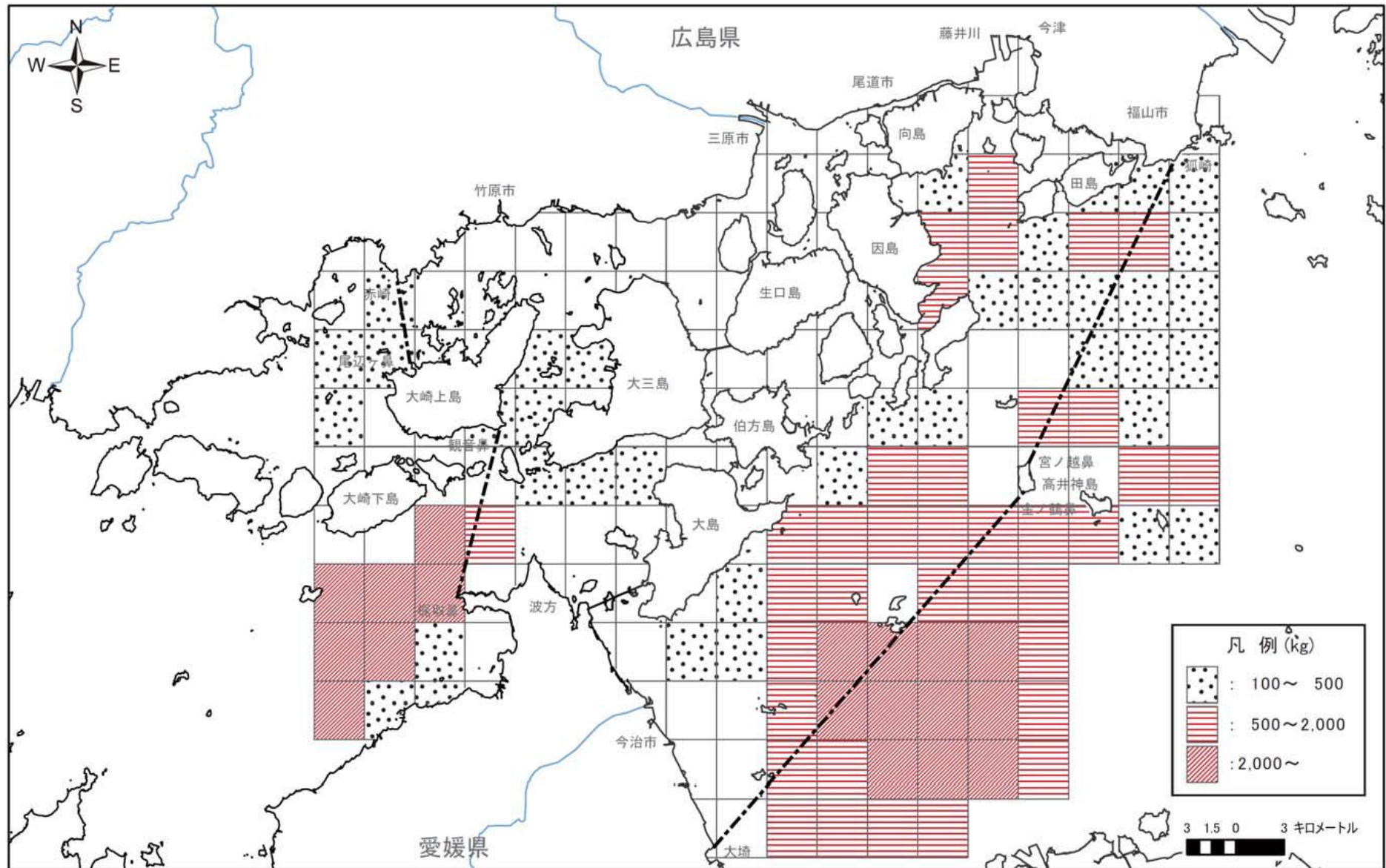
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 1.10(4) 主要魚種の漁場分布図（マダイ）



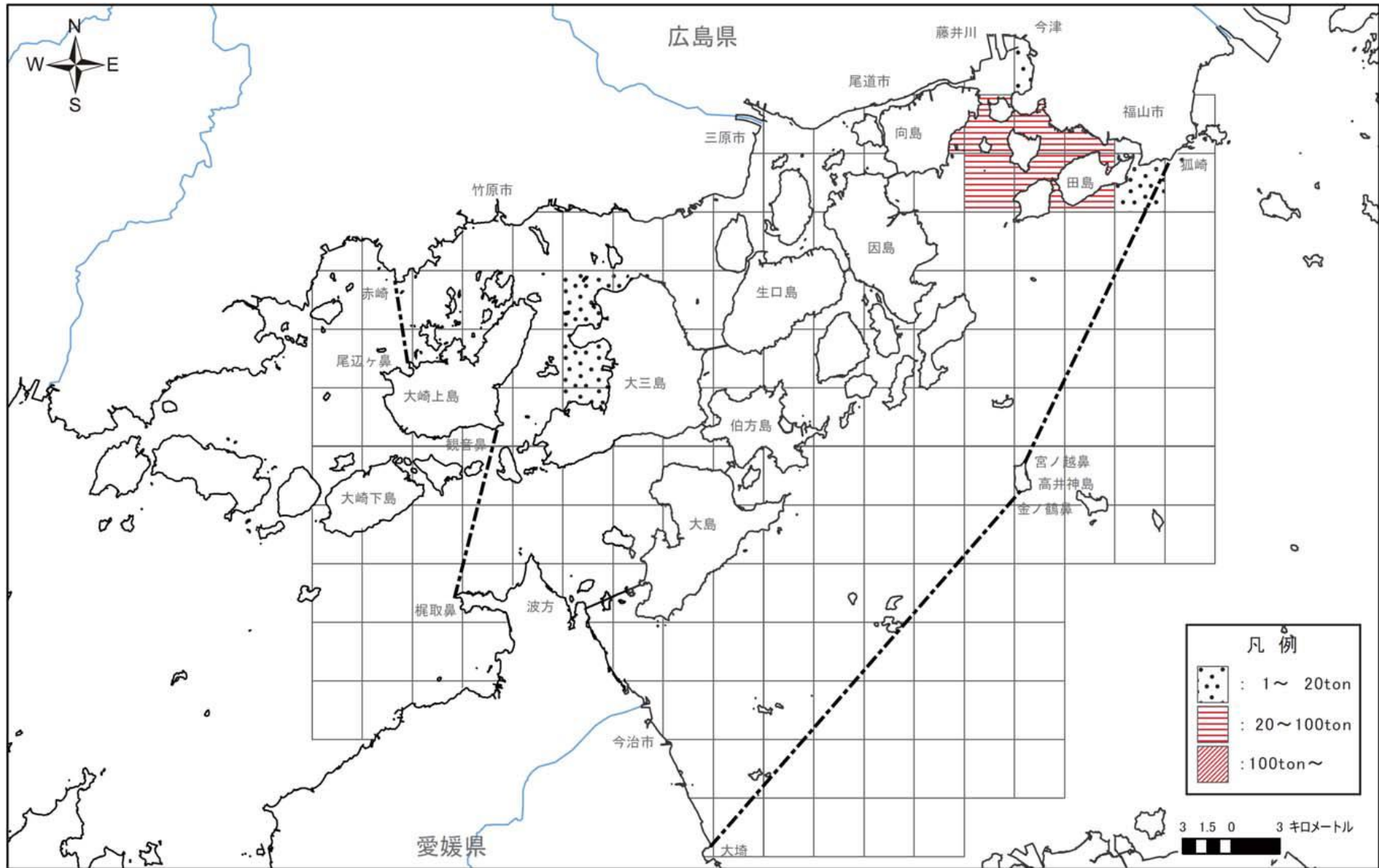
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 1.10(5) 主要魚種の漁場分布図（ガザミ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 1.10(6) 主要魚種の漁場分布図（クルマエビ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 1.10(7) 主要魚種の漁場分布図（アサリ）



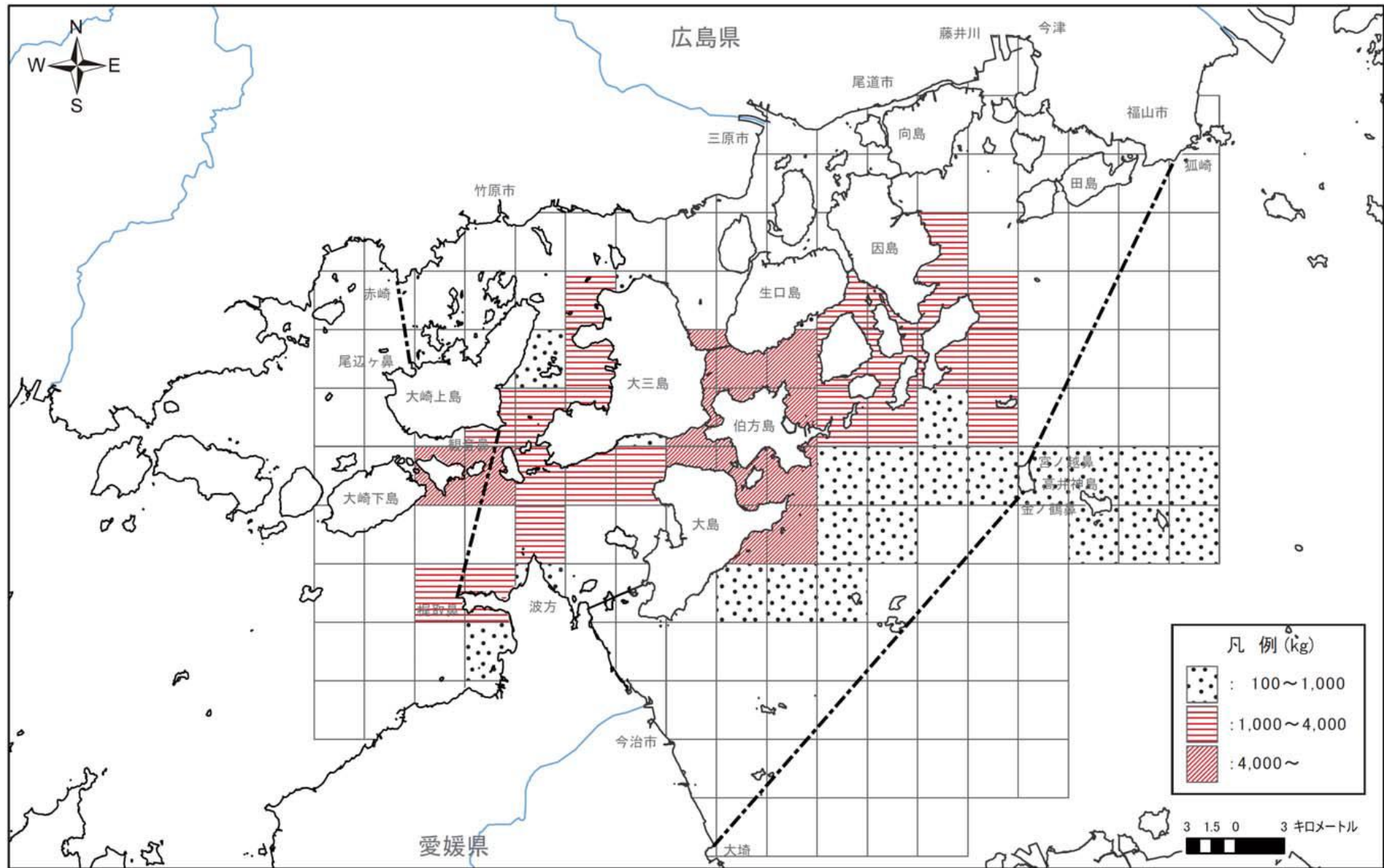


図 1.10(8) 主要魚種の漁場分布図（サザエ）

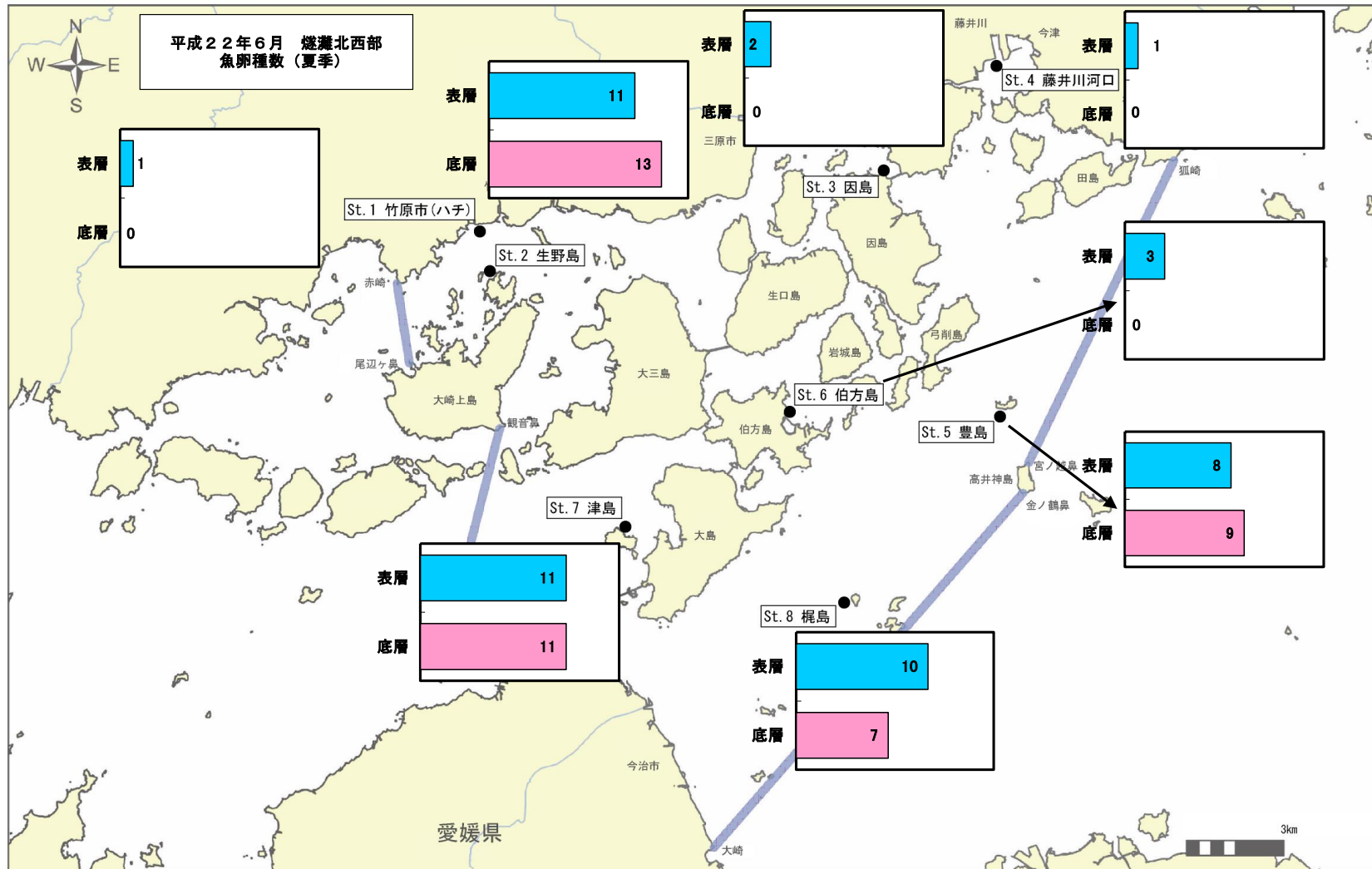
表 1.7 主要魚種の産卵場及び生育場について

主要魚種名	現地調査結果等のまとめ
スズキ	卵は北東部、南部、北西部の島しょ部藻場において、卵及び稚仔魚が確認された。燧灘北西部にはスズキの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料（親魚の分布域を示す漁場環境評価メッシュ図）から、北東部の浅場、南部の浅場、北西部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マコガレイ	卵は確認されなかったが、稚仔魚は松永湾において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び生育場としては松永湾、北東部の浅場、南部の浅場、北西部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
イシガレイ	卵は確認されなかったが、稚仔魚は南部の島しょ部藻場において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては北東部の浅場、南部の浅場、北西部の浅場を、生育場としては松永湾、北東部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
ヒラメ	卵は北東部、南部、北西部、中央部の島しょ部藻場において確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては北東部、南部、北西部、中央部の浅場を、生育場としては松永湾、北東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マダイ	卵は北東部、南部、北西部の島しょ部藻場において、稚仔魚は北西部の島しょ部も場において確認された。燧灘北西部にはマダイの産卵に適した場所はないことから既存資料も含め産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、松永湾、北東部の浅場、南部の浅場、北西部の浅場、中央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
ガザミ	卵及び稚ガニは確認されなかった。ヒアリング調査結果及び既存資料から産卵場および生育場としては松永湾、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
クルマエビ	卵及び稚エビは確認されなかった。ヒアリング調査結果及び既存資料から産卵場としては南部の浅場を、生育場としては松永湾、南部の浅場、北西部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
アサリ	卵は確認されなかったが、稚貝は中央部の島しょ部藻場で確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び生育場としては松永湾、北西部の浅場、中央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
サザエ	卵及び稚貝は確認されなかった。ヒアリング調査結果及び既存資料から産卵場及び生育場としては南部の浅場、北西部の浅場、中央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。

既存資料：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月、水産庁）

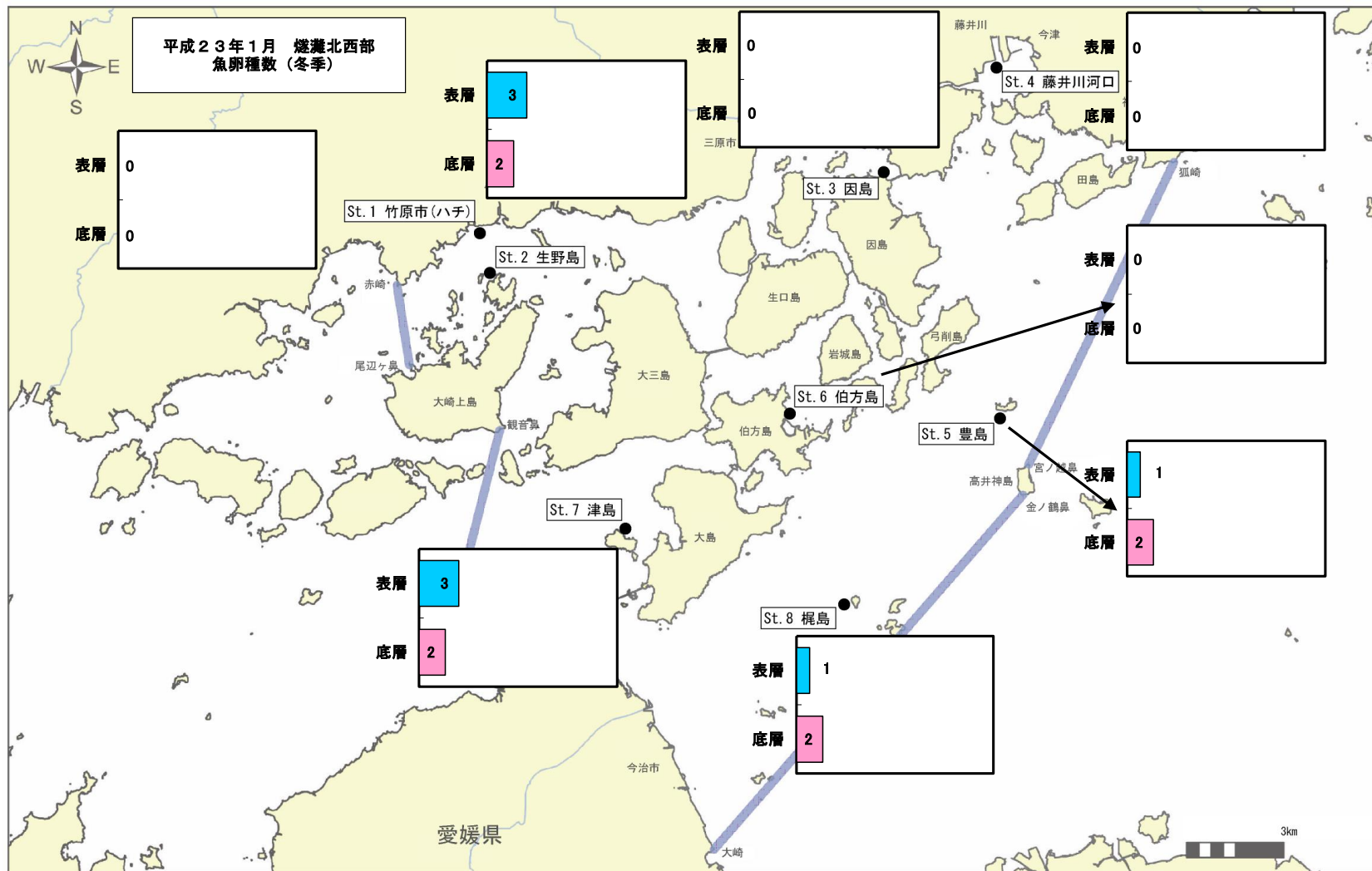
我が国周辺水域の漁業資源評価（平成 27 年、水産庁・水産総合研究センター）

出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成



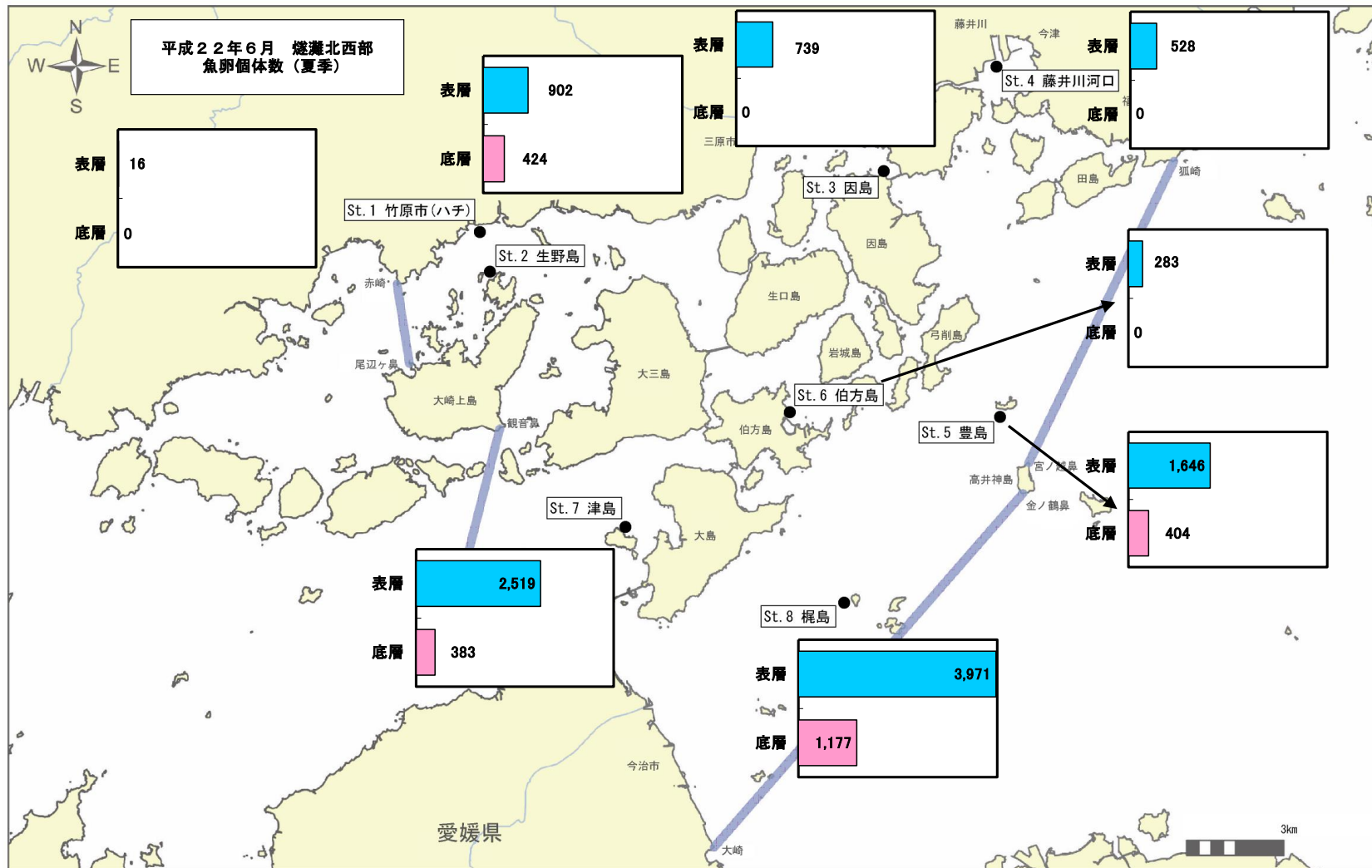
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 1.11 (1) 魚卵種数の出現状況 (夏季)



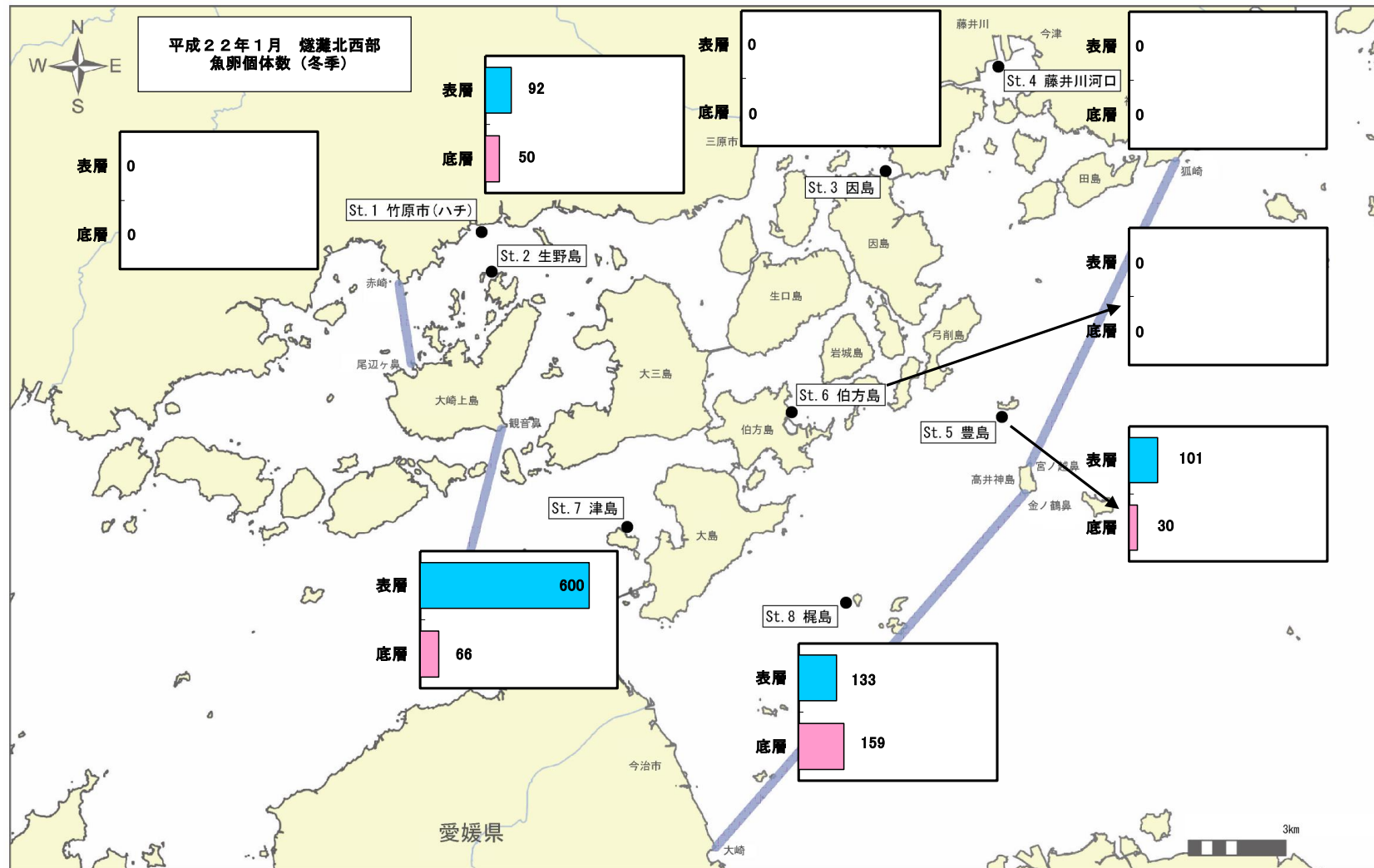
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 1.11 (2) 魚卵種数の出現状況 (冬季)



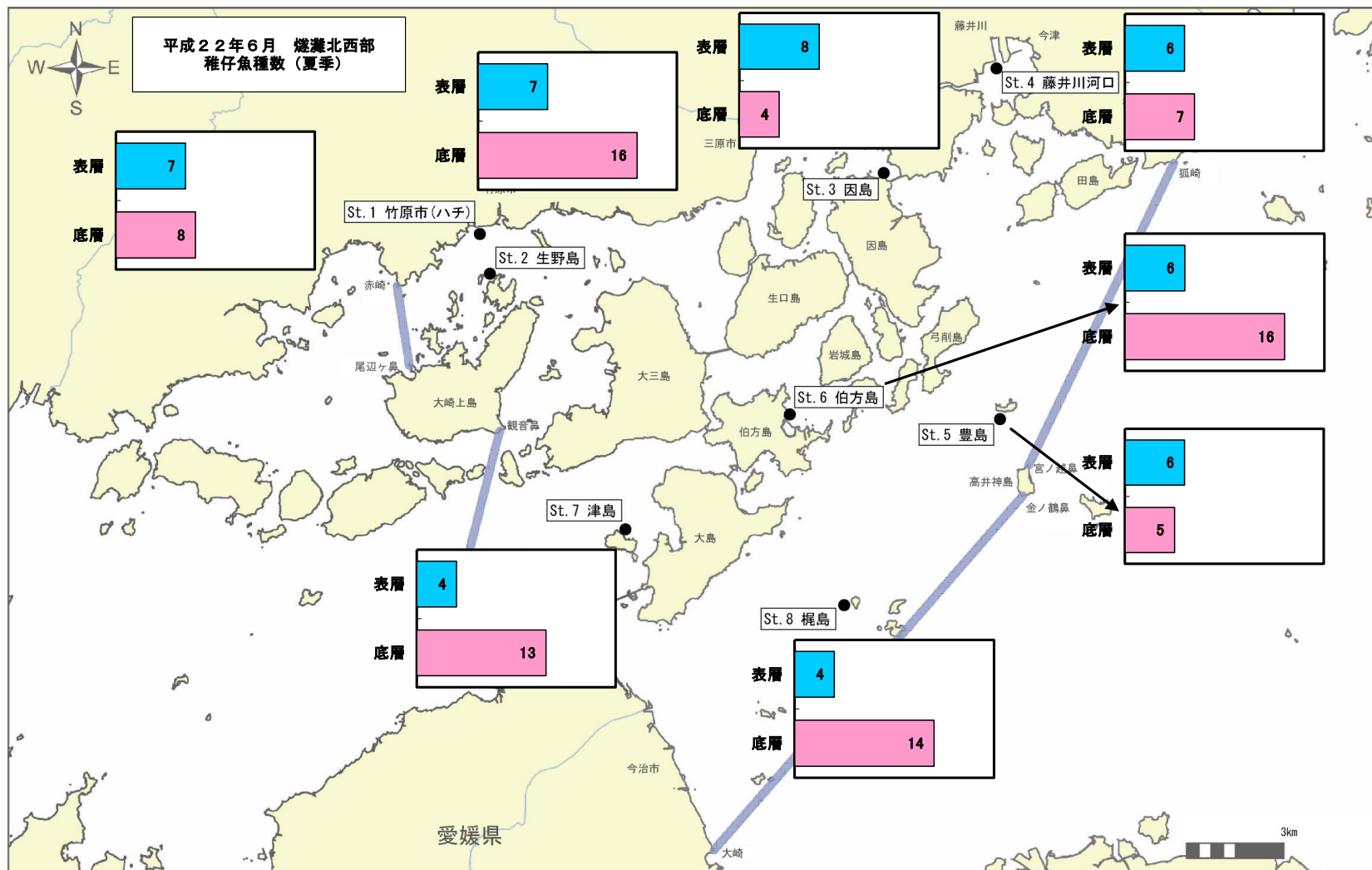
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成（図中の数値の単位は、個体/1,000m<sup>3</sup>）

図 1.11 (3) 魚卵個体数の出現状況（夏季）



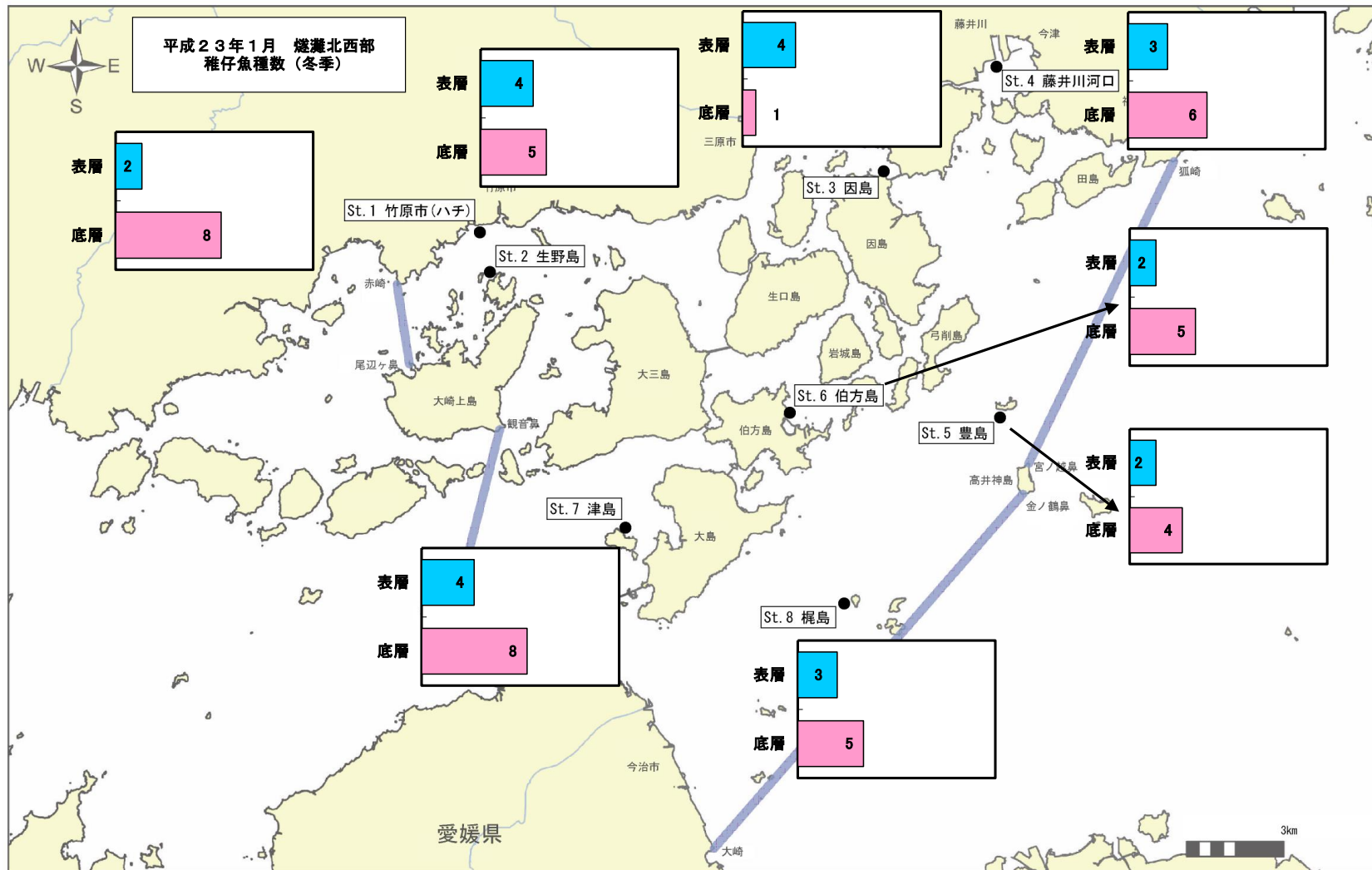
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成（図中の数値の単位は、個体/1,000m<sup>3</sup>）

図 1.11 (4) 魚卵個体数の出現状況 (冬季)



出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

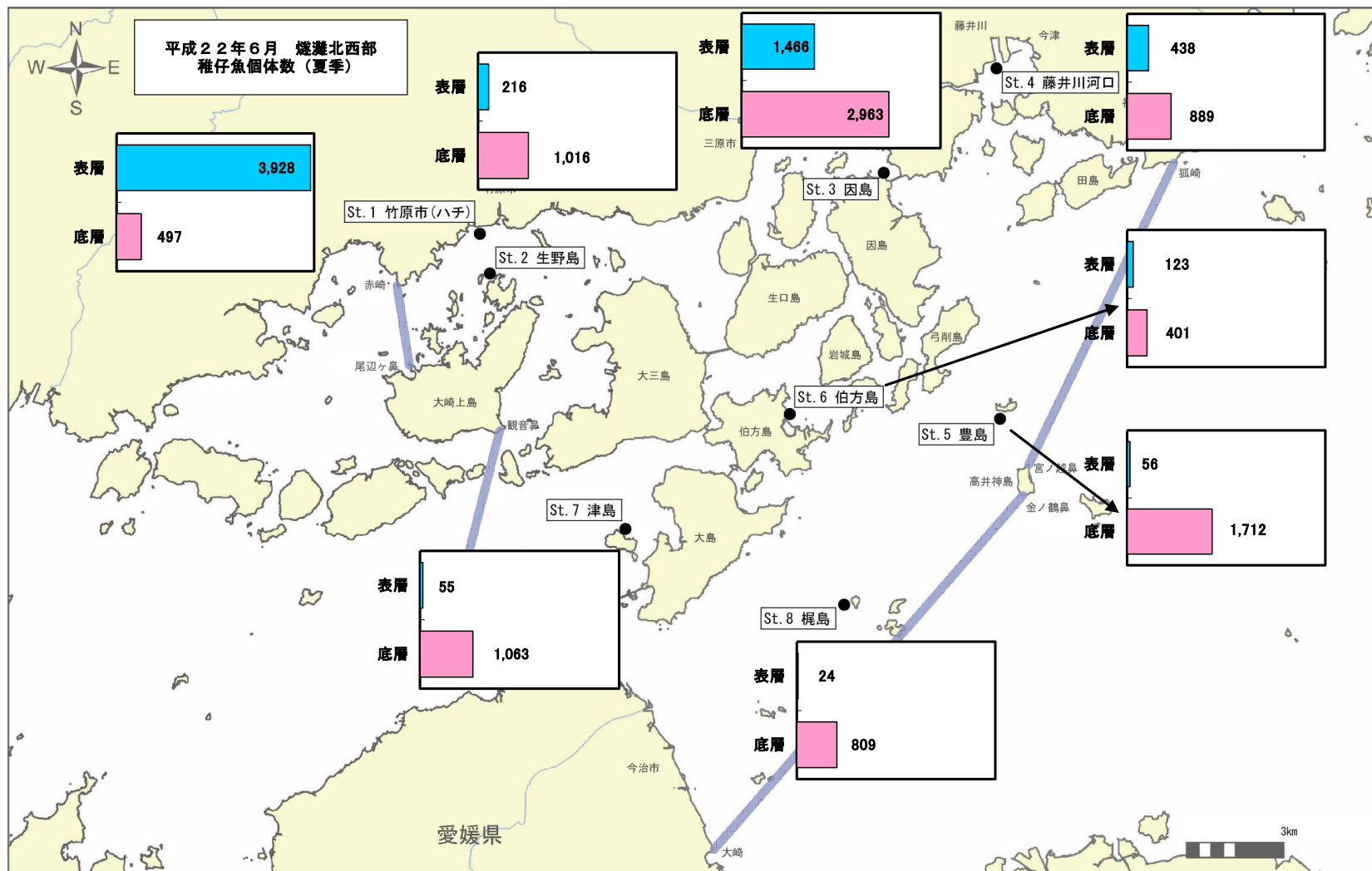
図 1.11 (5) 稚仔魚種数の出現状況 (夏季)



出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

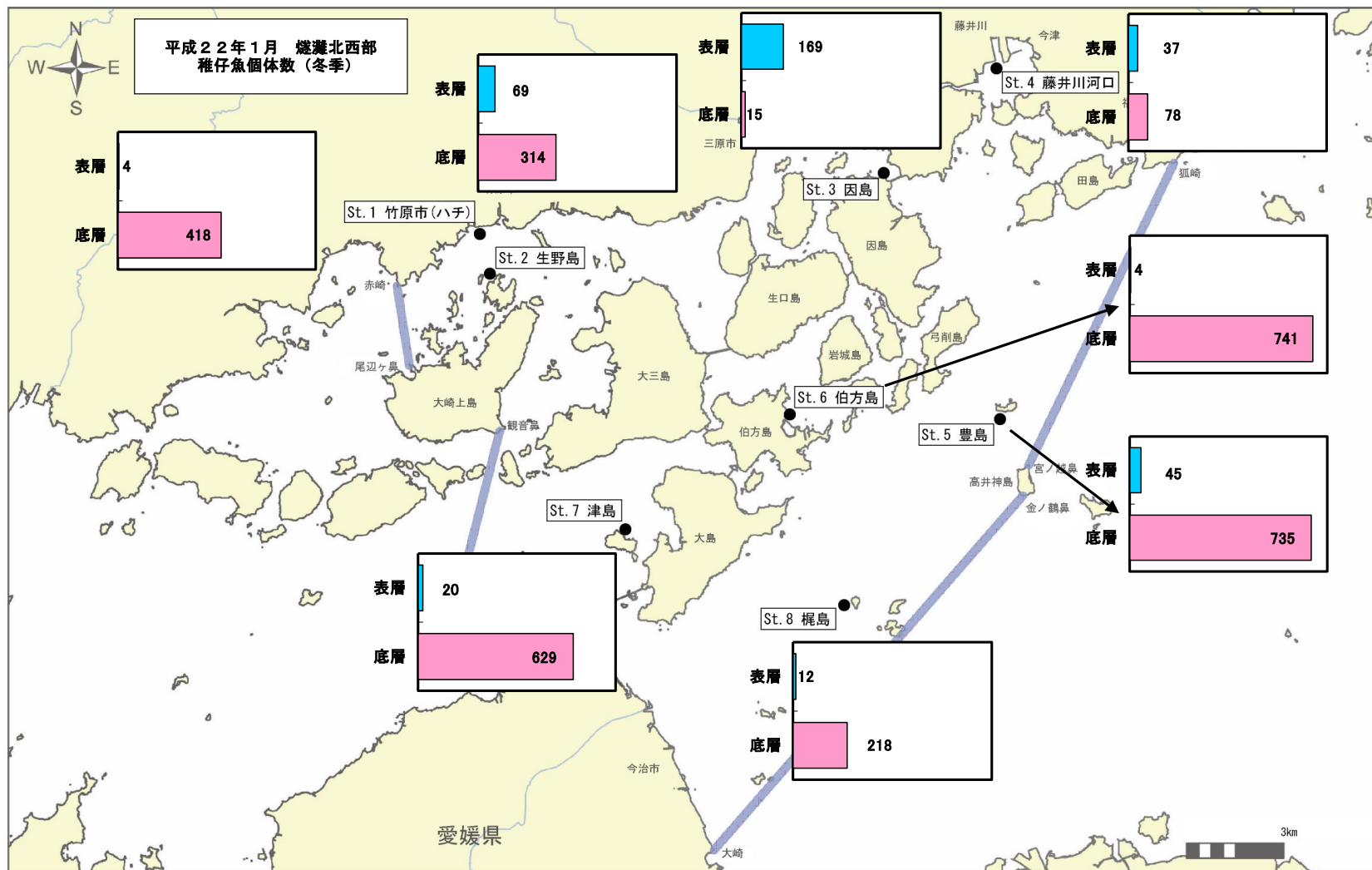
図 1.11 (6) 稚仔魚種数の出現状況 (冬季)





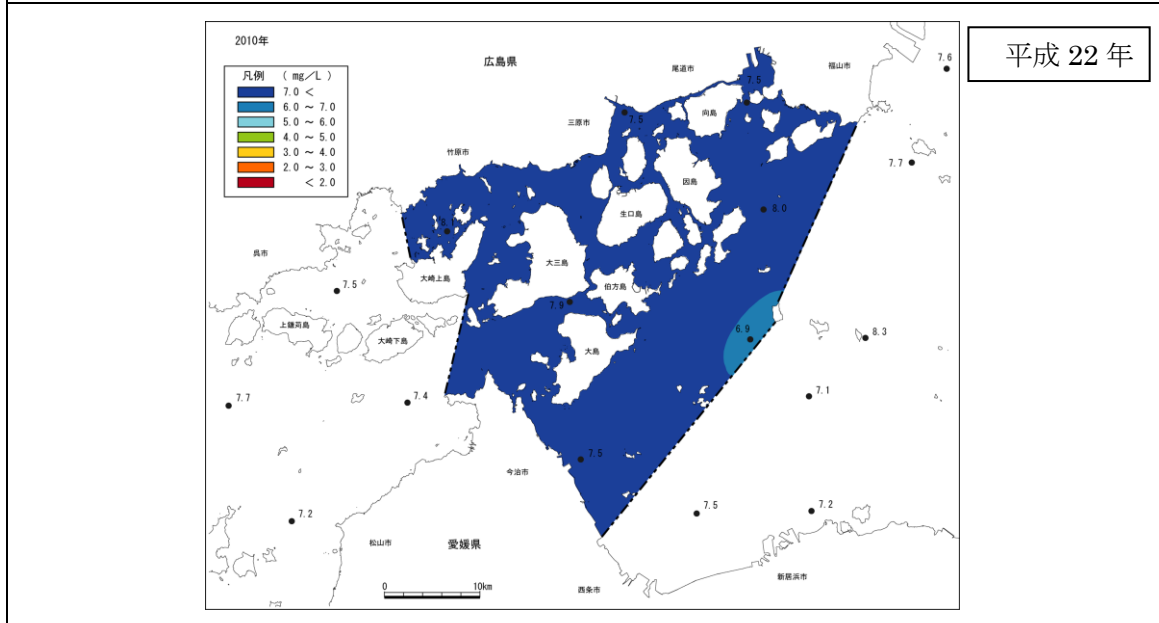
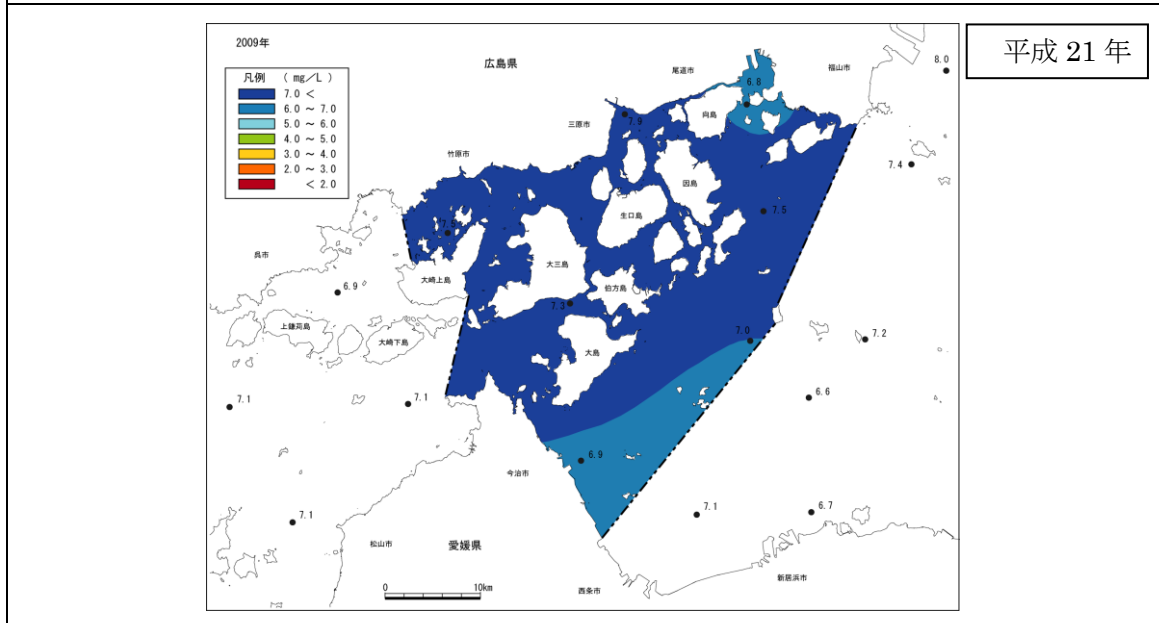
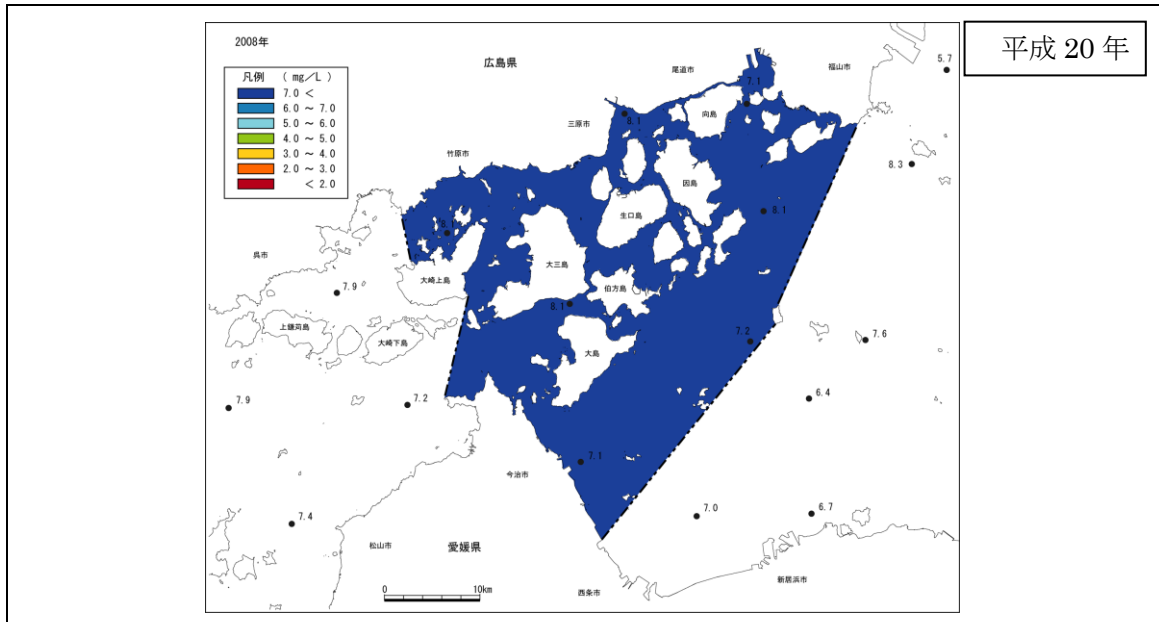
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成 (図中の数値の単位は、個体/1,000m<sup>3</sup>)

図 1.11 (7) 稚仔魚個体数の出現状況 (夏季)



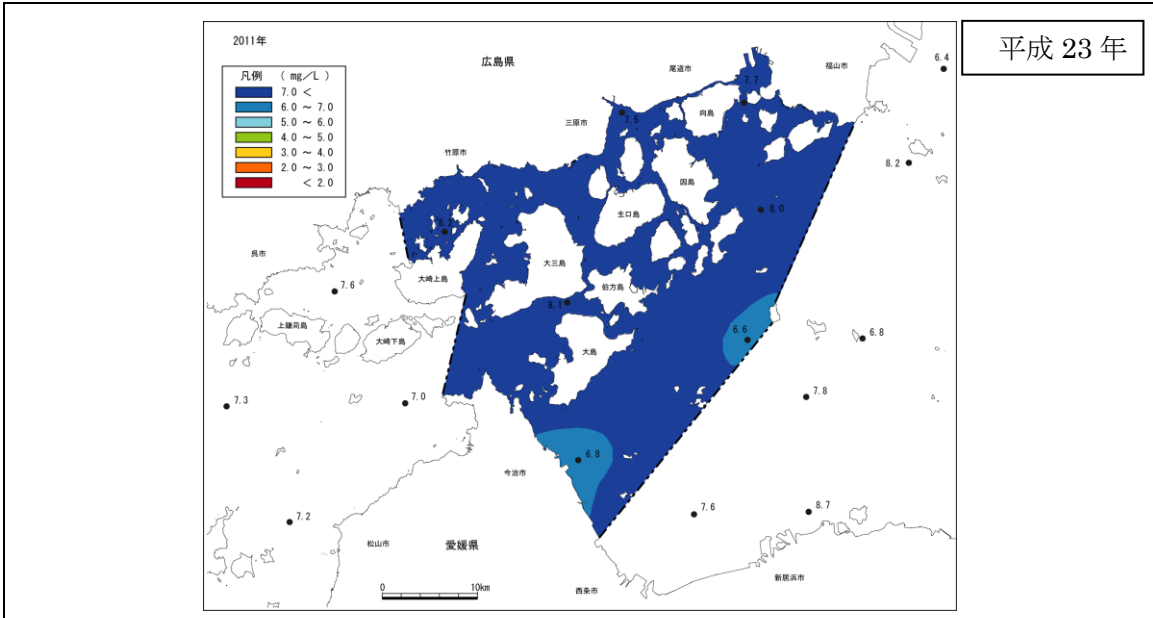
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成（図中の数値の単位は、個体/1,000m<sup>3</sup>）

図 1.11 (8) 稚仔魚個体数の出現状況 (冬季)

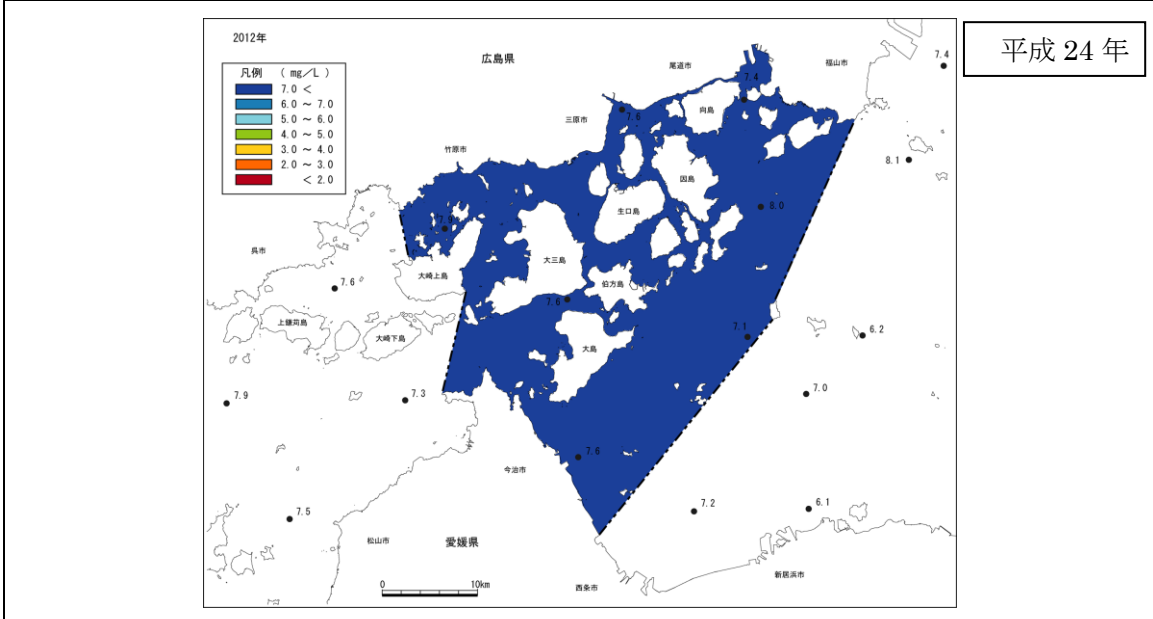


出典：環境省広域総合水質調査結果

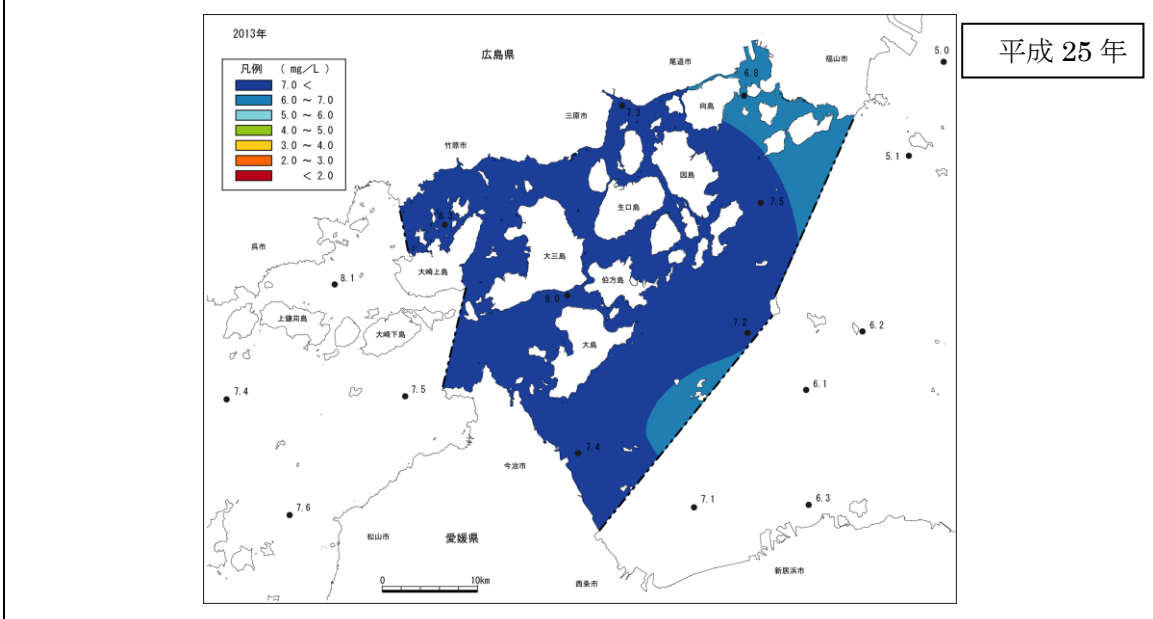
図 1.12(1) 夏季底層DO分布の経年状況（燧灘北西部）



平成 23 年



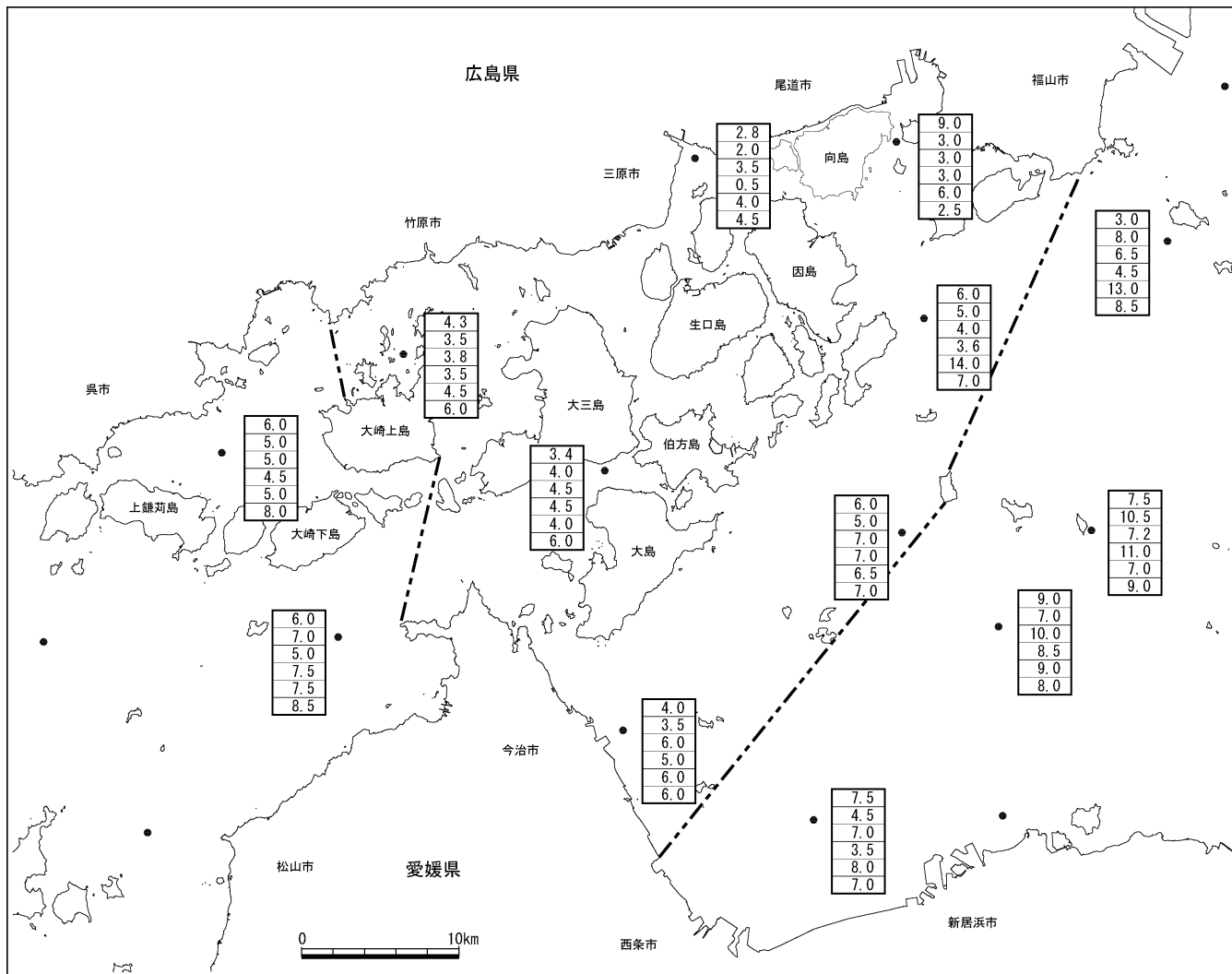
平成 24 年



平成 25 年

出典：環境省広域総合水質調査結果

図 1.12(2) 夏季底層DO分布の経年状況（燧灘北西部）



出典：環境省広域総合水質調査結果

注) 各地点の値は上段から順次、平成20年～平成25年の透明度 (m) を示す。

図 1.13 夏季透明度の分布 (燧灘北西部：平成20年～平成25年)

